Vol.85　オルタード・テンションを絡めたソロの基礎知識　～その 3～

では、『10 分トレ』vol.85、始めていきましょう。

引き続き、オルタード・スケールの基本を学んでいきます。

前回は、スケールポジションを、どちらかと言えばトニックからブリッジ側に展開しているもので練習しましたね。

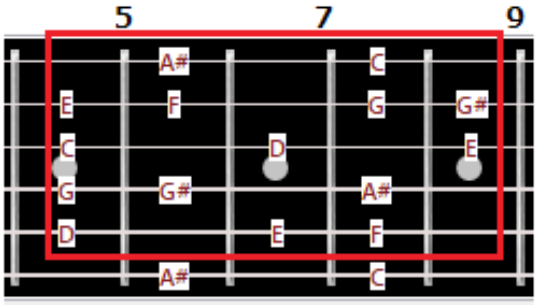
あれはあれで良いのですが、場合によっては少し使い辛かったりもするので、今回は逆の、ヘッド側に展開するポジションを覚えていきましょう。

この【10 分トレ】の初期に、メジャースケールでも同じ様な事をしましたが、スケールはトニックから左右に展開できる様にしておくと、フレージングやフィンガリングがやりやすくなります。

いつもの様に key=Am のＶ－Ｉで見ていきましょうか。

ではまず、5 弦ルートの E7 から、6 弦ルートの Am7 に進む場合で、E7 上で E オルタードを使うパターンです。

図 1、E オルタード・スケール、5 弦トニック(＝D ロクリアン♮2＝A♯リディアン♭7)



5 弦 7 フレット E 音に薬指を置いて弾き始めましょう。

他のスケールの名前も付けていますが、それぞれメロディック・マイナー上に形成されるモード・スケールの名前なので、ポジション把握の参考にしてください。

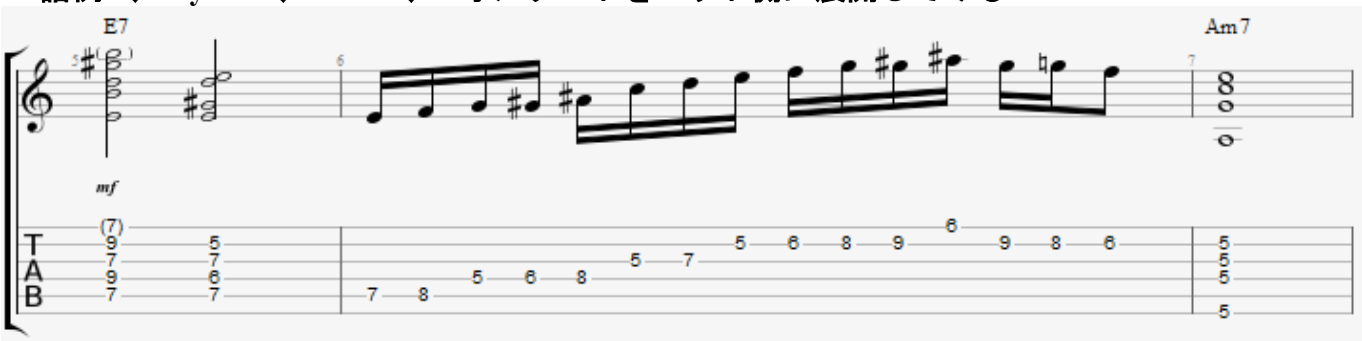
リディアン♭7 スケールは、【教科書】の方でも解説しているので、すでに覚えている人もいるかもしれませんね。

この辺りの関係性を繋げていくと、新しく覚えるものも、比較的楽になってきます。

と、言う事で、基本となる練習フレーズは以下です。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

譜例 1、key=Am、Ⅴ－Ⅰ、E オルタードをヘッド側に展開してみる 1

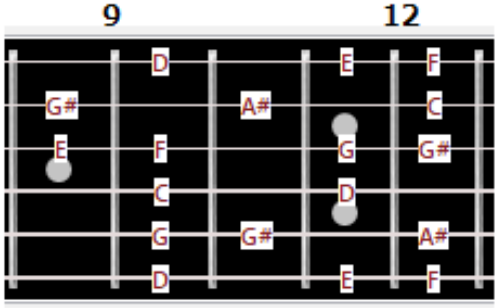


譜割りが 16 分音符になっていますが、特に気にせず、ゆっくり弾いてみて下さい。

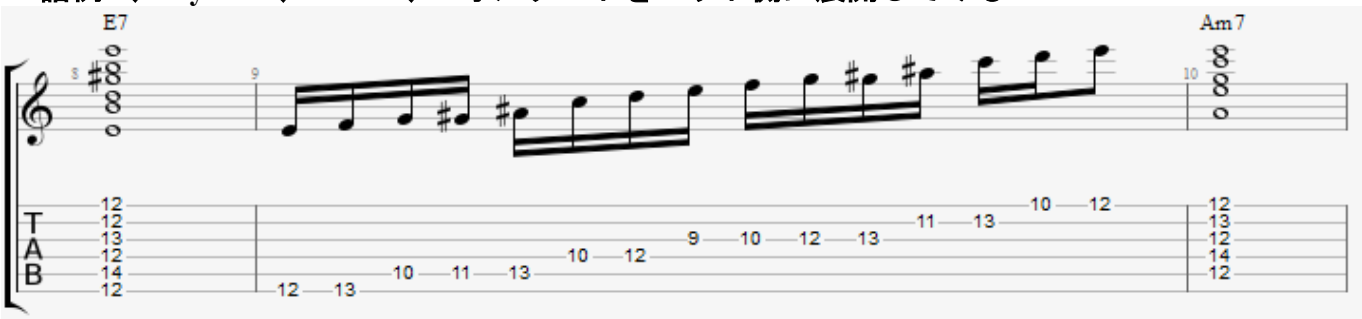
前回(vol.84)の譜例の様にブリッジ側に展開すると、大元のポジションやコードの位置がずれていく様な感覚になると思いますが、これならば小さな範囲でまとまっていますね。

同じことを 6 弦トニックの方でもやってみましょう。

図 2、E オルタード・スケール、6 弦トニック(＝D ロクリアン♮2＝A♯リディアン♭7)



譜例 2、key=Am、Ⅴ－Ⅰ、E オルタードをヘッド側に展開してみる 2



前回のものと合わせて覚えておきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved